

## Trial translation

The following is a passage from an article that will be published on *Nippon.com*. The translation should be fluent, natural, and informative to readers without specialist knowledge of Japan. Use American English spelling. Send your translation (in .doc, .docx, .rtf, or .txt format) to [durfee@nippon.com](mailto:durfee@nippon.com) no later than Friday, January 24.

欧米諸国と比較するとき、高等教育在学者に占める成人学生の比率の低さも、際だっている。もっぱら新規高校卒業者を対象に、入学試験による選抜を重視してきた日本の大学では、学生の圧倒的多数を若者が占め、成人学生の数は限られている。文部科学省統計には、在学者の年齢別構成すら存在しないのが実情である。18歳人口が減少の一途をたどり、定員割れで経営困難に陥る私立大学が続出している今も、それは基本的に変わっていない。生涯学習社会の到来が言われるなか、日本の大学は若者だけの世界であり、成人学習者の比率が着実に高まっている欧米諸国との違いは大きい。

それはさらに、大学院教育の発展の遅れとも深くかかわっている。日本の大学では長い間、専門教育も専門職業教育も学士課程の役割であり、大学院は研究者養成の場と見なされてきた。第二次大戦後、大学院制度についてもアメリカ・モデルの改革が行われたにもかかわらず、アメリカに特徴的な専門職大学院の制度が導入されたのは、ようやく2004年になってからであり、いまでも修士課程在学者の1割弱を占めるに過ぎない。